

令和5年度HSK青年部会主催実践研修会を開催しました

12月1日（^金）兵庫県学校厚生会館にてHSK青年部会主催の実践研修会を開催しました。国が宣言している2050年カーボンニュートラルの達成には、まだまだ課題が多くある中で静脈産業が担う役割も大きいため、脱炭素型資源循環システム構築に向けて国が静脈産業に求めていることに焦点を当てた、政策の方向性と具体的な方法について研修会を行いました。

会員・非会員合わせて35名参加し、DXの実装化をテーマにディスカッションも行いました。研修終了後には、講師、パネラーも参加し懇親会も開催しました。懇親会では、全員との交流を楽しんでもらえるよう、参加者一人、ひとり自己紹介をしながら新たな繋がりを持つ機会になったり、久しぶりに会う人もいて、それぞれに交流を楽しみました。



研修会の振り返り

静脈産業に求められる国の期待と脱炭素化に向けて

【講演】産廃業界への期待と国が進めたいコトについて

講師：HSK青年部会副部会長 武本佳弥

環境省中環審循環型社会部会小委員会での資料や議論の内容を中心に、「なぜ脱炭素化に取り組むのか?」「なぜDX推進をしていくのか?」について裏話的なものを含めてお話ししました。

【講演】scope 3 への対応について自社取り組み事例紹介

講師：西部サービス(株)管理部総務課 担当課長 日吉弘幸氏

Scope 3にはどんな活動が含まれるのか、実質どう取り組んでいけばいいのかについての考え方や、情報収集方法、計算の仕方など具体的な取り組み方を自社事例を基にお伝えしました。

【パネルディスカッション】

DX推進と実装化における課題と解決策

パネラー：JYOMYAKU株式会社 代表取締役 田平 誠人氏

サイクラーズ株式会社代表取締役 福田 隆氏

DXE株式会社 環境ICT推進部 網野 有間氏

モデレーター：武本佳弥（HSK青年部会副部会長）

田平氏には今話題のチャットGPTについて基本的なことから産廃業務での活用できる可能性を中心にお話しいただきました。福田氏、網野氏には、電子契約書や電子マニフェストの導入の際に躊躇する理由として挙げられる「コスト」「手間」「信頼性」について、それらの課題に対応すべく機能や仕組みについて自社商品での事例を用いてお話しいただきました。また、DX事業者の立場で産廃業界に対して、DX化に積極的に取り組まないことによる今後の事業にどう影響してくるのかなど、かなり突っ込んだ内容でのディスカッションが展開されました。